

## 城下町・犬山を歩く

「卒論報告会」のレポートでも紹介したが、今年度の卒論に「地域のまちづくりから持続可能な社会を考える～愛知県犬山市の事例から」というのがある。デジカメで撮った多くの写真が掲載され、ビジュアルに仕上がっており、内容もなかなか良い。

この卒論に触発されて、時間をやりくりして犬山のまちを駆け足で歩いてきた。地下鉄と名鉄を使って、大学から1時間ほどで行くことができた。卒論で使われていた地図を参考にして、とにかくお城に向けて歩いた。その途中に写真のような町並みがつづいていた。城下町らしい町並みであり、伝統的な建造物も残っており、路地も風情があった。国宝・犬山城には行ったことはあるが、城下町の町並みを歩くのは初めてだ。平日ということもあり、店の多くは閉まっていたが、歴史のある城下町の雰囲気味わうことができた。



この卒論で興味深いのは、城下町の7つの通りに面する586の建物を一軒ずつ調べたことである。自転車を使って丹念に調べた調査結果によると、通りから見える部分に歴史的雰囲気をもった建物は全体の24.4%しかなく、75.6%が歴史的な雰囲気を失っている。伝統的建造物でも歴史的雰囲気を失っているものは16.2%にのぼり、これは歴史的建造物全体の46.3%にあたるという。卒論では「建築物だけが地区全体に落ち着いた雰囲気をもたらしているのではなく、----美装化された道路やたて看板などによって、総合的に雰囲気がつくられている」としている。駆け足で城下町の町並みを歩いてみて、この指摘を理解することができた。



(2006年2月22日)